

# 北海道浮魚ニュース

平成 27(2015)年度 17 号

2015 年 9 月 17 日

道総研 釧路水産試験場

ホームページ<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/shigen/ukiuo/index.html>

## ◎平成 27 年オホーツク海サンマ漁況見通し発表される

北海道立総合研究機構水産研究本部釧路水産試験場・網走水産試験場および国立研究開発法人水産総合研究センター東北水産研究所・北海道水産研究所が協議を行い、9月17日に「2015年（H27年）オホーツク海沿岸におけるサンマ漁況の見通し」を発表しましたので、内容をお知らせします。

### 【漁況見通し】

- ① 来遊量 : 来遊量は昨年並で少ない
- ② 来遊時期 : オホーツク海沿岸への来遊は 10 月中旬以降

### 1. オホーツク海で漁獲されるサンマの回遊（予備知識）

例年オホーツク海で漁獲対象となる魚群は中型・小型魚が主体で、この群は7月～8月に北方四島の太平洋側から移入するものと考えられています。

従って、7月～8月に太平洋海域に分布する中型・小型魚の分布量が多いことが前提条件となり、さらに北方四島海域の表面水温が10℃以上であれば、オホーツク海への来遊資源量は多くなると考えられます。オホーツク海に回遊したサンマは、8月～9月にはオホーツク海の中南部海域に広く分布します。9月以降には海水温の低下にともない、宗谷暖流域の比較的水温の高い（10℃以上）北海道沿岸域へと移動し、漁場が形成されます。

※魚体区分：特大魚（体長32cm以上）、大型魚（29-31cm台）、中型魚（24-28cm台）、小型魚（20-23cm台）、ジャミ（20cm未満）。年齢：特大・大型魚は1歳、中型・小型魚とジャミは0歳。

### 2. 来遊資源量および来遊条件

#### ・6～8月の太平洋における中型・小型魚の分布量

東北水産研究所が今年の漁期前（6月～7月）に日本近海から西経165度で実施した表層トロール調査結果によると、東経162度以西（日本近海）では大型魚が主体で、これより東方へ行くほど大型魚の割合は低下しました。調査海域全体の資源尾数は昨年よりやや多く（昨年の105%）、中型・小型魚が主体で大型魚混じりでした。オホーツク海

へ来遊すると考えられる東経162度以西に分布する中型・小型魚の資源尾数（3.8億尾）は、昨年（1.9億尾）よりも多いが2003年以降の13年間で4番目に少ない値でした。また、本年7月～8月の太平洋海域（主に東経154度以西）におけるサンマ棒受網漁業の漁獲物は大型魚が84%であり、中型・小型魚は16%でした。中型・小型魚の推定漁獲尾数は0.11億尾と推定され、昨年（0.07億尾）よりも多いが、2003年以降の13年間で3番目に少ない値でした（図1）。昨年は道東太平洋海域に本格的な漁場が形成されたのが9月中旬と遅く、今年も前年同様の9月中旬に道東太平洋海域での漁場形成が確認されました。

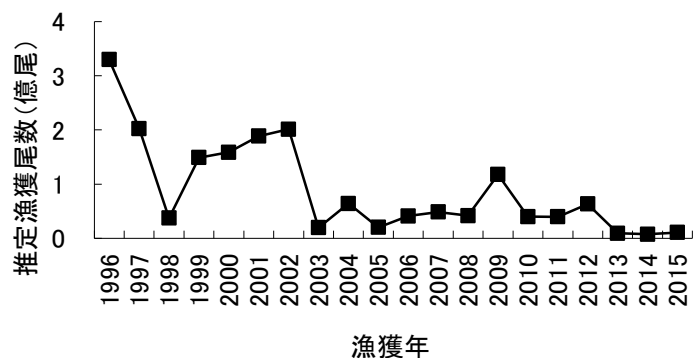


図1 太平洋海域における中型・小型サンマの推定漁獲尾数（8月下旬まで）

### ・オホーツク海へ回遊する海況条件

7～8月の北方四島海域における表面水温が高い（10℃以上）年には、サンマがオホーツク海へ回遊する条件が良好であると考えられています。今年の7月下旬から8月下旬の北方四島海域の表面は、ほぼ全域にわたって10℃以上の水温帯に覆われていました。従って、今年の太平洋からオホーツク海へ回遊する海況条件は、7月下旬以降、好適であったと考えられます。

### 3. 北海道沿岸域への来遊時期

紋別沖の週間平均表面水温の年最高値とオホーツク海におけるサンマ初漁日の間には、週間平均表面水温の年最高値が17℃以上の年に限れば、水温が高い年ほど初漁日が遅くなる傾向が見られます（図2）。

今年9月上旬までの週間平均表面水温の最高値は8月第4週の19.0℃で、昨年よりも1.1℃高い値でした（図2）。この水温を過去の初漁日と水温の関係に照らし合わせると、今年の初漁日は10月中旬と、昨年の9月下旬（推定）より遅く推定されました。

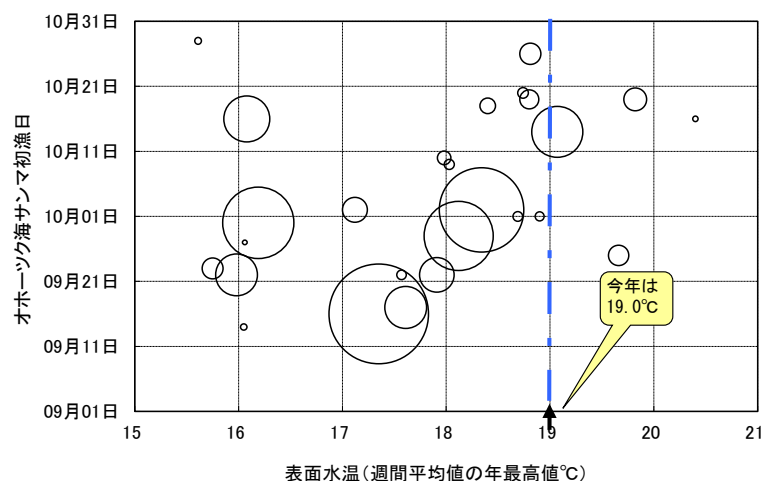


図2 紋別沖の週間平均表面水温の年最高値とオホーツク海におけるサンマ初漁日の関係

表面水温は北緯44度～45度、東経143度～144度の海域  
図中の丸は年間漁獲量の多さを相対的に示し、最も大きい丸は約2万トンである。

**以上をまとめると、漁獲の主対象となる中型・小型魚の資源量は昨年並で少なく、その日本近海（太平洋海域）への来遊状況を見ると、来遊時期は昨年同様で、漁獲尾数は昨年並で少ない値でした。本年は海洋環境が好適であったものの、オホーツク海沿岸へのサンマ来遊量は昨年並で少なく、その来遊時期は10月中旬以降と考えられます。**

### 4. その他

オホーツク海で操業する棒受網漁船の多くは太平洋から回航してくるため、オホーツク海における漁獲量は、来遊資源量が十分ならば、この回航隻数と操業期間、すなわち延べ操業隻数に左右されます。また、9月中旬・下旬の道東太平洋海域の漁況が良好である年はそこで操業を続けるため、オホーツク海への回航隻数は少なくなる傾向にあります。このため、この時期の道東太平洋の漁況がオホーツク海の漁獲量を決定する要因の一つになっています。本年は前年同様9月中旬に道東太平洋海域に漁場が形成されたことから、オホーツク海へ回航する漁船が少なくなる可能性があると考えられます。

(釧路水産試験場調査研究部、TEL:0154-23-6222、FAX:0154-23-6225)